

変化に対応する力

「米国で2011年度に入学した小学生の65%は、大学卒業時、今は存在していない職に就くだろう。」これは、2011年の夏に、米国の大学教授キャシー・デビットさんが新聞で発表した内容である。当時は、「米国ならそれもありえるだろう。」という程度にとらえていたが、最近では、日本でもかなりの確率で起こりえると思うようになった。

小学校入学から大学卒業まで16年。16年前、今の高校生が生まれた頃、どれだけの人が現在の日本を予測できたであろうか。ポケベルからスマホにいたる通信機器の急速な進歩を筆頭に、グローバル化に伴う農業経営環境の変化、環境問題・他国との関係・食生活・家族観・勤労観の変化など。それに伴う新たな仕事も発生している。うっすらとした予感があったとしても、専門家でもないかぎり、正確に予想することは困難な時代である。

今、うっすらと予測できることは、確実に進む人口減少によって、なにか想定外のことが起こりそうだということ。そしてより確かなことは、明治以降の急激な人口増加の中で積み重ねられてきた将来への見通しや予想は、今後の人口減少社会ではあてはまらないかもしれない、ということである。

本荘高校の卒業生は、将来、職場や地域社会などの組織のリーダーとなることが求められる。親世代が経験したことのない今後の社会の変化の中で、その変化を感じ取り、組織を修正していくためには、創造力とともに仲間と協働する力が必要である。今後の社会では、一人の人間や、一つの専門分野だけで解決できる問題は皆無であると考えている。

本荘高校で身につけた基本的な学力や、部活動・生徒会活動等で経験した仲間との交流など、「右文尚武」の実践が、新たな仕事や職場における変化に対応する力になるものと確信し、職員と一丸となって協働していく覚悟である。